

陸連時報 三

2018
平成30年

8

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

| | |
|---|-----|
| 評議員会・理事会報告 | 222 |
| ジャカルタ2018アジア競技大会 競歩日本代表内定選手 | 224 |
| 第28回世界競歩チーム選手権大会報告(強化委員会 男女競歩オリンピック強化コーチ 今村文男) | 226 |
| 第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会報告(日本陸連事務局 岩瀧一生) | 227 |
| IAAF RUN 24:1「Outrun the Sun」開催報告 | 229 |
| セイコーゴールデングランプリ陸上2018大阪 キッズデカスロンチャレンジ報告 (普及育成委員会 岸政智) | 231 |
| 2018年度全国医務部長会議報告(理事・医事委員長 山澤文裕) | 233 |
| RunJapanの設立準備状況について(日本陸連RunJapan設立準備室) | 234 |
| 大会観戦ガイド | 235 |
| 陸協NEWS | 236 |
| 事務局からのお知らせ | 238 |

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

評議員会・理事会報告

第49回理事会

日時：2018年5月31日（木） 14時00分～16時00分

場所：小田急第一生命ビル 11階 貸会議室

【議題】

（協議事項）

1. 第7期事業報告・決算報告
2. 第7期決算における収支相償の対応策
3. ドーハ2019世界陸上競技選手権大会マラソン・競歩日本代表選手選考競技会の指定について

（報告事項）

1. 強化委員会組織体制（強化情報戦略部）
2. 第23回世界ハーフマラソン選手権大会（2018／バレンシア）報告
3. 2018世界競歩チーム選手権大会（太倉）報告
4. 第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会（2018／岐阜）日本代表選手
5. ジャカルタ2018アジア競技大会競歩種目日本代表内定選手
6. 2018年度JOCナショナルコーチ等及び専任コーチ等
7. Outrun the Sunの開催

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より理事定数30名中、出席者数26名で本理事会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

（協議事項）

1. 第7期事業報告・決算報告
尾縣専務理事より事業報告について、小手川財務委員長より決算報告について、室城監事より監査報告について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに承認された。（資料1参照）

2. 第7期決算における収支相償の対応策
尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、第7期決算における収支相償の対応策として、特定費用準備資金の主催事業等引当預金として70,000,000円、国際競技会誘致引当預金として90,000,000円を積み立てることが承認された。

3. ドーハ2019世界陸上競技選手権大会マラソン・競歩日本代表選手選考競技会の指定について
麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、2019年9月28日から10月6日まで、カタールのドーハで開催される世界陸上競技選手権大会のマラソン及び競歩種目の日本代表選手選考競技会の指定が承認された。

（報告事項）

1. 強化委員会組織体制（強化情報戦略部）
2. 第23回世界ハーフマラソン選手権大会（2018／バレンシア）報告
3. 2018世界競歩チーム選手権大会（太倉）報告
4. 第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会（2018／岐阜）日本代表選手
5. ジャカルタ2018アジア競技大会競歩種目日本代表内定選手
上記、麻場強化委員長より資料に基づき、報告された。
6. 2018年度JOCナショナルコーチ等及び専任コーチ等
尾縣専務理事より資料に基づき、日本オリンピック委員会の2018年度ナショナルコーチ、アシスタントナショナルコーチ、専任コーチング

ディレクター（ジュニアアスリート担当及びNTC担当）、専任メディアカルスタッフ（トレーナー）及び専任情報・科学スタッフが報告された。

7. Outrun the Sunの開催

尾縣専務理事より資料に基づき、国際陸上競技連盟のグローバルキャンペーンとして、世界の24都市において、2018年6月6日現地時間17時に1マイルを走るIAAF RUN 24:1「Outrun the Sun」を東京・駒沢オリンピック公園総合運動場で開催することが報告された。

なお、非公開において、「特別寄付金の受領」、「2020年第104回日本陸上競技選手権大会開催地」を協議し、原案通り承認された。第104回日本選手権は、大阪府大阪市・ヤンマースタジアム長居にて、2020年6月25日（木）から28日（日）までの4日間の開催となる。

第50回理事会（非公開）

日時：2018年6月25日（月） 10時00分～11時44分

場所：ホテルニュータナカ 3階 孔雀の間

【議題】

（協議事項）

1. ジャカルタ2018アジア競技大会日本代表選手
2. ドーハ2019世界陸上競技選手権大会マラソン・競歩日本代表選手選考要項（資料2-1、資料2-2参照）
3. 倫理に関する組織及び諸規程の整備

（報告事項）

1. 第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会（2018／岐阜）報告
2. ドーハ2019アジア陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項（資料3参照）
3. 主催競技会の公募
・日本陸上競技選手権大会混成競技／U20日本陸上競技選手権大会混成競技
4. RunJapanの設立準備状況について

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より理事定数30名中、出席者数27名で本理事会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

上記の協議事項が承認され、また報告を行った。

定時評議員会

日時：2018年6月28日（木） 14時52分～17時13分

場所：小田急第一生命ビル 11階 貸会議室

【議題】

（協議事項）

1. 第7期事業報告・決算報告

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より評議員定数20名中、出席者数16名で本評議員会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

（協議事項）

1. 第7期事業報告・決算報告
尾縣専務理事より事業報告について、小手川財務委員長より決算報告について、山田監事より監査報告についてそれぞれ資料に基づき説明があり、ともに承認された。（資料1参照）

資料1 公益財団法人日本陸上競技連盟

第7期 収支決算書（対前年度）

（2017年4月1日から2018年3月31日まで）

（単位：円）

| 科 目 | 第7期決算額 | 第6期決算額 | 増減 |
|--------------|---------------|---------------|--------------|
| 経常収益 | | | |
| 1. 基本財産運用収益 | 5,319,561 | 1,442,132 | 3,877,429 |
| 2. 登録料受入収益 | 26,710,050 | 26,667,600 | 42,450 |
| 3. 加盟金受入収益 | 4,700,000 | 4,700,000 | 0 |
| 4. 受取寄付金 | 10,000,000 | 10,000,000 | 0 |
| 5. 受取委託金・助成金 | 360,921,685 | 346,404,211 | 14,517,474 |
| 6. 事業収益 | 1,702,000,072 | 1,652,397,281 | 49,602,791 |
| 7. その他事業収益 | 52,646,249 | 52,136,963 | 509,286 |
| 8. 雑収益 | 13,750,303 | 15,947,900 | △ 2,197,597 |
| 経常収益計 | 2,176,047,920 | 2,109,696,087 | 66,351,833 |
| 経常費用 | | | |
| 9. 事業費 | 1,921,320,332 | 1,957,368,865 | △ 36,048,533 |
| 10. 管理費 | 95,245,650 | 100,474,479 | △ 5,228,829 |
| 経常費用計 | 2,016,565,982 | 2,057,843,344 | △ 41,277,362 |
| 当期経常増減額 | 159,481,938 | 51,852,743 | 107,629,195 |
| 経常外費用計 | 0 | △ 2,000,000 | 2,000,000 |
| 当期正味財産増減額 | 159,481,938 | 49,852,743 | 109,629,195 |

資料2-1 ドーハ2019世界陸上競技選手権大会 マラソン日本代表選手選考要項

1. 編成方針

世界に通用するマラソン選手育成のため、ポスト東京オリンピックも視野に入れたつつ、本大会での入賞を目指す競技者で選手団を編成する。

2. 選考競技会

- (1) 男子
- ・第72回福岡国際マラソン選手権大会 (2018 / 福岡)
 - ・東京マラソン2019 (2019 / 東京)
 - ・第74回びわ湖毎日マラソン (2019 / 大津)
 - ・2018北海道マラソン (2018 / 北海道)
 - ・第68回別府大分毎日マラソン (2019 / 別府)

- (2) 女子
- ・第4回さいたま国際マラソン (2018 / さいたま)
 - ・第38回大阪国際女子マラソン (2019 / 大阪)
 - ・名古屋ウィメンズマラソン2019 (2019 / 名古屋)
 - ・2018北海道マラソン (2018 / 北海道)

3. 選考基準

編成方針に基づき、選考競技会出場者の中から、男女最大で3名を下記の優先順位で選考する。ただし、2019年9月のファイナルエントリー時点で、国際陸上競技連盟 (以下、IAAF) が定める本大会の参加資格を充たしていることを条件とする。

- (1) 選考競技会において、その競技会のみでの成績によりマラソングランドチャンピオンシップ (以下、MGC) の出場資格を獲得した競技者及び選考競技会参加前に、MGCの出場資格を獲得している競技者のうち、選考競技会においてその競技会のみでの成績によりMGC出場資格を獲得できる成績を収めた競技者の中で、各選考競技会における記録・順位・レース展開・タイム差・気象条件等を総合的に勘案しつつ、本大会で活躍が期待される競技者。

- (2) 選考競技会において日本人3名以内の競技者の中で、各選考競技会における記録・順位・レース展開・タイム差・気象条件等を総合的に勘案しつつ、本大会で活躍が期待される競技者。(最大2名)
- (3) 2019年5月31日現在でIAAFが発表しているマラソン種目のワールドランキングマラソン日本人上位者の中で、本大会で活躍が期待される競技者。

4. 選考方法

全ての選考競技会終了後に、選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、原案策定会議で選考し、理事会において決定する。選考基準(3)での選考が生じる場合は、2019年6月に強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会にて決定することがある。

5. その他

- (1) 本大会の参加資格に係るIAAFワールドランキングのパフォーマンススコア対象期間は、2018年3月7日から2019年9月6日まで。
- (2) 代表選手は、編成方針及び選考基準に則って選考されるが、その派遣人数はIAAFが定めるエントリー数の上限の枠を確保するものではない。
- (3) 代表選手は本連盟が定める義務を遵守するものとする。
- (4) 下記の項目に該当する場合は、代表を取消することがある。
- 1) アンチ・ドーピング規程に反した場合
 - 2) 故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合
 - 3) 本連盟が定める義務を遵守しない場合
- (5) 代表選手の決定から本大会までの期間が長いことに配慮し、男女各1名の補欠を選考し、ファイナルエントリーまでに正選手に故障などが生じた場合は、補欠が正選手となり本大会に出場する。
- (6) 天災、その他の理由で選考競技会が中止になった場合は、代替の選考競技会を設定する場合がある。
- (7) 本大会は、2019年9月28日～10月6日までドーハ (カタール) で開催される。

資料2-2 ドーハ2019世界陸上競技選手権大会 競歩日本代表選手選考要項

1. 編成方針

東京2020オリンピック (以下、東京オリンピック) へ向けた2019年度最重要な国際競技会と位置づけ、暑熱環境下においても実力を存分に発揮できる能力を有し、東京オリンピックで活躍が期待される競技者、並びに本大会でメダル獲得及び入賞が期待される競技者で選手団を編成する。

2. 選考競技会

- (1) 男子20km競歩
- ・ジャカルタ2018アジア競技大会
 - ・第102回日本陸上競技選手権大会・20km競歩 (2019 / 神戸)
 - ・第43回全日本競歩能美大会 (2019 / 能美)
- (2) 男子50km競歩
- ・ジャカルタ2018アジア競技大会
 - ・第57回全日本50km競歩高島大会 (2018 / 高島)
 - ・第103回日本陸上競技選手権大会・50km競歩 (2019 / 輪島)

- (3) 女子20km競歩
- ・ジャカルタ2018アジア競技大会
 - ・第102回日本陸上競技選手権大会・20km競歩 (2019 / 神戸)
 - ・第43回全日本競歩能美大会 (2019 / 能美)
- (4) 女子50km競歩
- ・第57回全日本50km競歩高島大会 (2018 / 高島)
 - ・第103回日本陸上競技選手権大会・50km競歩 (2019 / 輪島)

3. 選考基準

編成方針に基づき、本大会の参加標準記録を有効期間中に満たした競技者の中から日本代表選手を選考する。ただし、2019年9月のファイナルエントリー時点で、国際陸上競技連盟 (以下、IAAF) が定める本大会の参加資格を充たしていることを条件とする。

- 種目ごとの内定条件と選考条件を、下記のとおり定める。
- (1) 内定条件 (男子20km競歩・男子50km競歩・女子20km競歩のみ)
- ・ジャカルタ2018アジア競技大会 (以下、アジア大会) で優勝した競技者
 - ・アジア大会以外の選考競技会の日本人最上位者で、全選考競技会終了時点で派遣設定記録を満たした競技者
- (2) 選考条件
- 選考競技会において日本人3名以内の競技者の中から、各選考競技会での記録・順位・レース展開・タイム差・気象条件等を総合的に勘案しつつ、歩型違反による失格のリスクの程度も併せて勘案し、本大会で活躍が期待され

ると評価された競技者

4. 派遣設定記録

| 種目 | 男子 | 女子 |
|--------|-----------|-----------|
| 20km競歩 | 1時間20分00秒 | 1時間30分00秒 |
| 50km競歩 | 3時間45分00秒 | 設定なし |

※派遣設定記録：本連盟が定める、世界ランキング12位相当の記録

派遣設定記録の有効期間は、2018年3月7日から全選考競技会終了日まで。

5. 選考方法

- (1) 選考基準 (1) による選考は、即時内定とする。
- (2) 選考基準 (2) による選考は、全選考競技会終了後、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会にて決定し、理事会において報告する。

6. 東京オリンピックの内定条件

本大会で、男子20km競歩、男子50km競歩、女子20km競歩において、各種目日本人最上位で3位入賞以上の成績を取った代表選手を、東京オリンピックの代表に内定する。ただし、IAAFが定める東京オリンピックの参加資格を有効期間中に満たすことを条件とする。

7. 補足

- (1) 本大会の参加資格に係るIAAFワールドランキングのパフォーマンススコア対象期間は、2018年3月7日から2019年9月6日まで。
- (2) 代表選手は、編成方針及び選考基準に則って選考されるが、その派遣人数はIAAFが定めるエントリー数の上限の枠を確保するものではない。
- (3) 代表選手は本連盟が定める義務を遵守するものとする。
- (4) 下記の項目に該当する場合は、代表を取消することがある。
- 1) アンチ・ドーピング規程に反した場合
 - 2) 故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合
 - 3) 本連盟が定める義務を遵守しない場合
- (5) 代表選手の決定から本大会までの期間が長いことに配慮し、各種目最大1名の補欠を選考することができる。ファイナルエントリーまでに正選手に故障などが生じた場合は、補欠が正選手となり本大会に出場する。
- (6) 天災、その他の理由で選考競技会が中止になった場合は、代替の選考競技会を設定する場合がある。
- (7) 本大会は、2019年9月28日～10月6日までドーハ (カタール) で開催される。

資料3 ドーハ2019アジア陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項

1. 編成方針

東京2020オリンピック競技大会の成功に向けても、2019年9月に開催されるドーハ2019世界陸上競技選手権大会は重要な大会である。その大会により多くの代表選手を派遣するためには、ワールドランキングを高めることが必要であるため、本大会でのメダル及び8位入賞を目指す選手団を編成する。

2. 期日

2019年4月予定

3. 場所

ドーハ (カタール)

4. 種目 (案)

- (1) 男子 100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、10000m、3000mSC、110mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、十種競技、4×100mリレー、4×400mリレー
- (2) 女子 100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、10000m、3000mSC、100mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、七種競技、4×100mリレー、4×400mリレー

6. 選考基準

各種目における選考の優先順位は、下記の通り。

- (1) 個人種目
- 1) 2018年12月31日時点の国際陸上競技連盟のHPで公表されるワールドランキングにおいて、各種目日本人最上位の競技者で、1カ国2名でカウントした場合、アジア8位に入る競技者。
 - 2) 2018年12月31日時点のワールドランキング、2018年度の主要競技会成績を基に、本大会でのメダルまたは入賞が期待できる競技者。

3) 強化委員会が推薦する競技者

(2) リレー種目

リレー種目の代表の選考は、個人種目に準じて選考するが、リレーの特性を考慮する。

7. 選考方法

選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し2019年2月上旬 (予定) に選考委員会にて決定する。

また、選考後の代表選手の入替えについては、強化委員会にて変更案を作成し、専務理事が承認する。

8. 補足

- (1) 本大会の期日、種目、参加資格等がアジア陸上競技連盟から発表されたあと、選考要項の変更の可能性がある。
- (2) 本大会は、ドーハ2019世界陸上競技選手権大会の日本代表選考競技会として指定される。
- (3) 種目毎の代表は、アジア陸上競技連盟が定めるエントリールールの人数とする。
- (4) 代表選手は本連盟が定める義務を遵守するものとする。
- (5) 下記の項目に該当する場合は、代表を取消することがある。
- 1) アンチ・ドーピング規程に反した場合
 - 2) 故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合
 - 3) 本連盟が定める義務を遵守しない場合
- (6) 選考から派遣までの期間を考慮し、代表選手は派遣まで定期的に各種目のオリンピック強化コーチへのトレーニングの進捗状況を報告する義務を有する。
- (7) 選考後のトレーニング状況の報告により、医事委員会がメディカルチェックの必要があると判断した場合は、応じる義務を有する。

ジャカルタ2018アジア競技大会 競歩日本代表内定選手

2018.6.20. 現在

8月25日から30日までインドネシア・ジャカルタで開催されるジャカルタ2018アジア競技大会。

競歩の日本代表選手を紹介致します。

※成績記録は大会当時のもの

【男子20kmW 2名】



高橋 英輝 (たかはし・えいき)

富士通・千葉 1992/11/19 生

花巻北高校(岩手)→岩手大学→富士通

自己ベスト：1時間17分26秒(2018

日本選手権)

主な成績：

2018年 世界競歩チーム選手権 20kmW 団体 1位

2018年 世界競歩チーム選手権 20kmW 18位

2017年 世界選手権 20kmW 14位

2016年 世界競歩チーム選手権 20kmW 団体 8位

2016年 世界競歩チーム選手権 20kmW 12位

2016年 オリンピック 20kmW 42位

2015年 世界選手権 20kmW 47位

2014年 ワールドカップ競歩 20kmW 団体 3位

2014年 ワールドカップ競歩 20kmW 9位

2013年 ユニバーシアード 20kmW 9位

〈大会に向けての抱負〉

日本代表選手としての自覚を強く持ち、金メダル獲得を目指して精一杯、準備していきます。

〈競技のココ・私のこんな姿に注目！〉

1km 4分を切るスピード感あふれるレース展開が20kmWの魅力です。ハイペースへの対応やラストの切り替えに注目していただければと思います。

〈日本代表になるために努力したこと〉

自分の長所であるスピードを磨く練習と、苦手なロングの練習をバランス良く取り組んできました。

〈ゲンを担いで大会前日の夕食に食べるもの〉

オムライス



山西 利和 (やまし・としかず)

愛知製鋼・愛知 1996/02/15 生

堀川高校(京都)→京都大学→愛知製鋼

自己ベスト：1時間17分41秒(2018日

本選手権)

主な成績：

2018年 世界競歩チーム選手権 20kmW 団体 1位

2018年 世界競歩チーム選手権 20kmW 4位

2017年 ユニバーシアード 20kmW 1位

2017年 アジア20km競歩選手権 20kmW 4位

2013年 世界ユース選手権 10000mW 1位

〈大会に向けての抱負〉

金メダル目指して頑張ります。

〈競技のココ・私のこんな姿に注目！〉

後半の粘りとフォーム！

〈日本代表になるために努力したこと〉

着実に練習を継続すること！

〈ゲンを担いで大会前日の夕食に食べるもの〉

国内外問わず、白米を食べるようにしています。



【男子50kmW 2名】



勝木 隼人 (かつき・はやと)

自衛隊体育学校・埼玉 1990/11/28 生

平野中学校(福岡)→武蔵台高校(福岡)

→東海大学→勝木商店→練馬自衛隊→

自衛隊体育学校

自己ベスト：3時間44分31秒(2018世界競歩チーム選手権)

主な成績：

2018年 世界競歩チーム選手 50kmW 団体 1位

2018年 世界競歩チーム選手 50kmW 2位

2017年 全日本50km競歩高島大会 1位

2017年 日本選手権 50kmW 3位

2016年 全日本50km競歩高島大会 2位

2016年 日本選手権

50kmW 3位

2015年 全日本50km

競歩高島大会 4位

〈大会に向けての抱負〉

良い色のメダルを獲ります。

〈競技のココ・私のこんな姿に注目！〉

笑顔でゴールします。

〈日本代表になるために努力したこと〉

休むこと、無理しないこと

〈ゲンを担いで大会前日の夕食に食べるもの〉

ゲン担ぎではありませんが「一本満足バー」を3本くらい食べます。



丸尾 知司 (まるお・さとし)



愛知製鋼・愛知 1991/11/28 生
洛南中学校(京都)→洛南高校(京都)
→びわこ成蹊スポーツ大学→和歌山県
教育庁→愛知製鋼

自己ベスト：3時間43分03秒(2017
世界選手権)

主な成績：

2018年 世界競歩チーム選手権 50kmW 団体 1位

2018年 世界競歩チーム選手権 50kmW 3位

2017年 世界選手権

50kmW 5位

2016年 世界競歩

チーム選手権 20kmW

団体 8位

2016年 世界競歩

チーム選手権 20kmW

41位

〈大会に向けての抱負〉

応援してくださる方々に感謝の気持ちを込めて、自らのパフォーマンスを最大限発揮できるようにしっかりと準備したいと思います。〈競技のココ・私のこんな姿に注目！〉



競歩の魅力は、驚くぐらいの速いペースで歩くところです！フルマラソンを3時間切るようなペースで歩きます！私の持ち味は粘り強さです。当日も粘り強いレースをしたいと思います。

〈日本代表になるために努力したこと〉

明確な計画を立てること。毎日の身体の状態を記録すること。どんなことがあっても諦めない。

〈ゲンを担いで大会前日の夕食に食べるもの〉

あえて食後にしじみのみそ汁を部屋でゆっくり呑みます。

【女子20kmW 1名】



岡田 久美子 (おかだ・くみこ)

ビックカメラ・東京 1991/10/17 生

熊谷女子高校(埼玉)→立教大学→ビック

カメラ

自己ベスト：1時間29分40秒(2016

日本選手権)

主な成績：

2018年 世界競歩チーム選手権 22位

2017年 アジア20km競歩選手権 2位

2017年 世界選手権 20kmW 18位

2016年 オリンピック 20kmW 16位

2015年 世界選手権 20kmW 25位

2014年 ワールドカップ競歩 20kmW 53位

〈大会に向けての抱負〉

メダル獲得を目指して頑張ります！

〈競技のココ・私のこんな姿に注目！〉

ルールが厳しい為、失格や駆け引きがあり最後までハラハラドキドキするところが競歩の魅力です。アジア大会では一度も失格

したことの無い安定したフォームで歩きます。

〈日本代表になるために努力したこと〉

自分の体と向き合いながら、長い時間をかけてトレーニングを積んできたこと。

〈ゲンを担いで大会前日の夕食に食べるもの〉

うどん！(国内試合のみ)



第28回世界競歩チーム選手権大会報告

強化委員会 男女競歩オリンピック強化コーチ 今村文男

1. 期日：2018年5月5日（土）および5月6日（日）
2. 派遣期間：5月2日（水）～5月7日（月）
3. 場所：中国 江蘇省太倉市
4. 選手団および成績

| 役職 | 氏名 | 所属 |
|-------|-------|-------------------|
| 監督 | 今村 文男 | 富士通 |
| コーチ | 清水 茂幸 | 岩手大学 |
| コーチ | 渡邊 正義 | 自衛隊体育学校 |
| コーチ | 谷内 雄亮 | 輪島市役所 |
| コーチ | 小坂 忠広 | 石川県立錦城特別支援学校 |
| トレーナー | 五十住峰輝 | 次世代ターゲット事業委託トレーナー |
| ドクター | 塚原 由佳 | 医事委員会委員 |

5月5日（土）午前8：00～男子50km競歩 天候：曇りのち雨
 スタート時 気温21度 湿度45% フィニッシュ時 気温17度 湿度90%
 シニア男子50km競歩成績一覧

| 参加国 | 25カ国 8チーム | | | | | |
|------|-----------|-------|---------|---------|---------|--------|
| 参加人数 | 59名 | 内DQ | 5名 | DNF | 5名 | 団体戦：優勝 |
| 競技結果 | 順位 | 氏名 | 国名 | 記録 | 備考 | |
| | | | | | 達成率 | 警告 |
| 男子 | 1 | 荒井 広宙 | 自衛隊 | 3:44:25 | 98.18% | 0 |
| | 2 | 藤木 隼人 | 自衛隊 | 3:44:31 | 101.82% | 0 |
| | 3 | 丸尾 知司 | 愛知製鋼 | 3:44:52 | 99.19% | 0 |
| | 36 | 伊藤 佑樹 | サーベリサーチ | 4:06:20 | 94.92% | 3 |
| | DNF | 小林 快 | ビックカメラ | === | === | 3 |

*団体戦は、各国上位3名順位の和
 *ピットレーン：伊藤選手はペナルティタイム5分加算

5月5日（土）午後4：30～女子20km競歩 天候：小雨
 スタート時 気温19度 湿度85% フィニッシュ時 気温19度 湿度87%
 シニア女子20km競歩成績一覧

| 参加国 | 33カ国 15チーム | | | | | |
|------|------------|-------------------------|---------|---------|--------|----|
| 参加人数 | 105名 | 内失格 | 5名 | 団体戦：7位 | | |
| 競技結果 | 順位 | 氏名 | 国名 | 記録 | 備考 | |
| | | | | | 達成率 | 警告 |
| | 1 | Mari Guadalupe Gonzalez | メキシコ | 1:26:38 | 99.60% | 0 |
| | 2 | Shenjie Qieyang | 中国 | 1:27:06 | 97.89% | 1 |
| | 3 | Jiayu Yang | 中国 | 1:27:22 | 98.77% | 1 |
| | 22 | 岡田久美子 | ビックカメラ | 1:31:29 | 98.01% | 1 |
| | 34 | 道口 愛 | 自衛隊体育学校 | 1:33:42 | 98.03% | 0 |
| | 63 | 河添 香織 | 自衛隊体育学校 | 1:37:13 | 95.82% | 0 |
| | 71 | 吉住 友希 | 船橋整形外科 | 1:42:12 | 90.34% | 0 |

*団体戦は、各国上位3名順位の和

5月6日（日）午前10：10～男子20km競歩 天候：曇りのち雨
 スタート時 気温25度 湿度73% フィニッシュ時 気温26度 湿度68%
 シニア男子20km競歩成績一覧

| 参加国 | 38カ国 14チーム | | | | | |
|------|------------|---------------|-------|---------|--------|--------|
| 参加人数 | 99名 | 内DQ | 4名 | DNF | 13名 | 団体戦：優勝 |
| 競技結果 | 順位 | 氏名 | 国名 | 記録 | 備考 | |
| | | | | | 達成率 | 警告 |
| 男子 | 1 | 池田向希 | 東洋大 | 1:21:13 | 97.54% | 0 |
| | 2 | Kaihua Wang | 中国 | 1:21:22 | 95.74% | 0 |
| | 3 | Massimo Stano | イタリア | 1:21:33 | 99.37% | 0 |
| | 4 | 山西利和 | 愛知製鋼 | 1:21:53 | 94.87% | 2 |
| | 7 | 藤澤 勇 | ALSOK | 1:22:54 | 94.55% | 0 |
| | 18 | 高橋英輝 | 富士通 | 1:24:07 | 92.05% | 3 |
| | 31 | 松永大介 | 富士通 | 1:26:25 | 89.89% | 2 |

*団体戦は、各国上位3名順位の和
 *ピットレーン：高橋選手はペナルティタイム2分加算

5. 目標と競技結果に対する分析、評価

(1) 目標

シニア男子50km競歩：

個人8位以内3名、16位以内2名、団体戦優勝

シニア男子20km競歩：

個人8位以内3名、16位以内2名、団体戦優勝からメダル圏内

シニア女子20km競歩：

自己記録の更新と団体戦6位以内入賞

(2) 競技結果に対する分析、評価

男子50km競歩：ロンドン2017世界陸上銀メダリストの荒井広宙選手を中心に個人と団体戦において金メダルを目標に戦った。直近3年の主要国際大会の金メダリストが、不参加ではあったが、荒井選手がリードオフマンとなり、ペースメイクをしてくれた。そのおかげで、国内レース同様に安定したペース配分となった。丸尾知司選手や勝木隼人選手においても積極果敢なレース対応で、終盤もペースが落ちず、荒井選手が優勝、2位勝木選手、3位丸尾選手と続き、日本選手が金銀銅メダルを独占した。そして、団体戦においても、優勝することができた。この背景として、組織的・計画的な選手強化と練習方法やコンディション調整の共有化が挙げられる。常にメダルレベルで戦える自己記録と高い技術レベルを持ち合わせ、今後も大いに期待できる種目に成長した。

【50km優勝荒井選手のラップ】

22:53-45:27 (22:34) -1:07:49 (22:22) -1:30:07 (22:18) -1:52:29 (22:12) -2:14:56 (22:27) -2:37:22 (22:26) - 2:59:56 (22:34) -3:22:13 (22:17) -3:44:25 (22:12)

女子20km競歩：ドーハ2019世界陸上や東京2020オリンピックへ向けた強化と国際競技力の向上の観点から女子については、海外における主要国際競技会の経験と個別に掲げた目標記録や順位の達成を目標として出場した。団体戦においては、データ分析に基づき6位をチーム目標とした。

メンバーの中心である岡田久美子選手は、8kmまで先頭集団に位置していたが、徐々に遅れ出し、挽回することなく、ペースダウンし22位。道口愛選手、河添香織選手、吉住友希選手は、序盤から劣勢を強いられ、個人が掲げた目標順位とはかけ離れた結果であった。記録面においては、岡田選手や道口選手の自己記録達成率（自己記録と結果の比）が98%台と高かったが順位を残すことができなかった。女子競歩の課題改善策として、強化目標記録を1時間30分以内に行っているが、今大会において、当該記録が15位相当であったことなどから、入賞を目標とするのであれば、自己記録を高めていかなければならない。まず、トラック種目の5000mや10000mなどのショートディスタンスで自己記録更新を目指し、専門種目である20km競歩の強化に繋げて欲しい。

男子20km競歩：山西利和選手、藤澤勇選手、池田向希選手を中心に団体戦を戦い、高橋英輝選手、松永大介選手においては、個人戦での上位入賞と総合力で戦う団体戦における補完選手として、メダル獲得に近いレベルでのレースを期待した。しかし、2名とも大会直前に技術面や体調不良の影響で思うようなパフォーマンスを発揮できなかった。結果として、池田選手が優勝したが、レース後半、特にラスト5kmからペースを上げるという戦術面と終始安定した歩型によって快挙を成し遂げることができた。また、団体戦でメダル獲得を達成するには、3番手となる選手の順位が重要となるが、今大会に向けて、2月、3月のアジア競技大会代表選考会などの連戦を戦った選手については、結果を見る限り、身体的な疲労や技術面の低下があったことは否めない。しかし、チーム派遣枠5名の強みと選手層の厚さを活かし、金メダルを獲得することができた。

【20km優勝池田選手のラップ】

20:38 - 40:59 (20:21) -1:01:09 (20:12) -1:21:13 (20:04)

課題として、男子競歩は、個別の技術課題が明らかになった。特に男子20km競歩において、ペースの切り替えやレース後半のペースアップで逃げ切る場合には、国際審判の判定に適合した世界基準の競歩技術がなければ勝ちきれないことが明確になった。東京2020オリンピックに向けた暑熱対策と併せて、戦術面の見直しと技術面の課題克服に向けての取り組みを開始したい。

第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会報告

日本陸連事務局 岩瀬一生

1. 総合成績

金メダル14個、銀メダル15個、銅メダル13個の計42個のメダルを獲得し、メダルテーブルでは2大会連続で中国を上回り第1位を獲得した(表1)。怪我の影響による3名の欠場はあったことは残念であった。大会3日目まではライバル国である中国にメダルテーブルで先行されていたが、最終日の金メダルラッシュにより逆転し最終的には過去最高記録の快挙であった。

本大会は、アジアジュニア初日本での開催であった。岐阜県の協力により、開会式では会場が満員になるほどの計画動員を行っていただいた。また、競技中も日本選手団を応援してくれる声が選手にも届き、力になったに違いない。

2. 選考過程

ファイナルエントリーの締め切りが、4月の上旬であったため、本年度の競技会の結果を加味することができず、2017年度の結果をもとに選考会議で選手選考を行わざるを得なかった。選考においては、「参加者全員がメダル獲得および入賞者となるように臨む」ことを目

(表1)

| RANK | COUNTRY | GOLD | SILVER | BRONZE |
|------|---------|------|--------|--------|
| 1 | Japan | 14 | 15 | 13 |
| 2 | China | 11 | 8 | 4 |
| 3 | India | 5 | 2 | 10 |

標とした。さらに、アジアでの大会であることから各種目の育成と普及に配慮して、各ブロックの極端な人数差がないようにしながら、将来日本代表選手として活躍が期待される競技者を選出するとともに、「アジアからU20世界選手権、そして五輪へ」を意識した選考ポリシーを共有して選考した。特筆すべき点として、個人での選出を重視し、リレーは選出された競技者で無理のない範囲で組める場合にエントリーしたこと、男子の混成競技については高校生競技者を抜擢したことなどがあげられる。また、本大会は高校総体県予選直後に開催されるということで、高校生で選出された選手には、高体連の先生方のご尽力のもとに県予選の免除策を講じていただいた。このことによって、種目によっては高校生の参加を促すことができ、編成方針で重要視していた「戦略的派遣」を達成することができた。

日本で開催される大会であったことで、派遣に係る経費がおさえられることで総勢70名の競技者を選考することができ、(1名は怪我のため、事前に棄権)多くのU20世代が国際競技会へ参加し、海外のレベルを肌で感じることができる良い機会を提供できた。

3. 現地の環境

本大会は、日本の梅雨の時期に岐阜県での開催ということで、天候が心配されたが、大きく天候が崩れることなく、大会全日程を過ごすことができた。

宿泊は、競技場から徒歩20分、バス10分に位置するホテルで、日本選手団のみが宿泊し、生活面で特に影響



はなかった。食事は3食ともビュッフェ形式で展開された。スーパーマーケットやコンビニ、コインランドリーが徒歩20分程度かかり、国内にも関わらず多少不便は感じる部分はあった。試合会場からホテルまでは大会側が用意したバスは選手団の要望に極力対応していただき、時間的にも気持ち的にも余裕をもって移動することができた。しかし、海外の競技会の場合日本のように、「時間通り」「要望に対応」ということは極めて少ない。そういった部分はミーティングの時間を利用し、杉井監督より選手には伝えていただいた。

以上のように、宿泊、食事、周辺的环境などはパフォーマンスの発揮を阻害する要因となるものはほとんどなかったといえる。

4. 大会の運営状況

アジア諸国での開催といえば、大会の運営体制がずさんであることが良く知られている。このことに柔軟に対応していかないと、持てる力を十分に発揮できなくなってしまう。しかし、今回は日本で開催されることから、いつもと同じ環境で競技が行えた。試合前のミーティングにおいて、監督からこの点については、日本での競技運営と海外での競技運営は違うということ、その心構えや、現在の自分たちの置かれている状況、発揮すべきパフォーマンスの目標などが明確に示された。コーチ陣のきめ細かな配慮により、安全面やコーチング面において臨機応変で的確な対応が十分に行われた。

選手たちには以下の点において、日本と海外は違いがあることをミーティングにおいて共有した。これは、今後国際競技会へ参加していく選手たちにとってはとても重要な情報である。

- 1) タイムテーブル、招集時間は大幅に変更されるので、常に最新の確かな情報を手に入れ、その変更を柔軟に受け入れるよう準備する。表彰式の時間、上述したバスの時間などもかなりルーズなので、すべての時間に余裕をもって行動する必要がある。
- 2) 試合会場に用意されるウォーミングアップエリアは、大会に応じて十分でない環境も予想される。「日本で行ういつものどおり」のウォーミングアップはできないことも想定し、その心構えと創意工夫によってウォーミングアップを行うことが必要である。
- 3) 試合時にはトラブルに見舞われることを想定しておく。今大会では、女子400mの予選においては、フライングがあったものの2発目の号砲が選手に届かず、そのままレースを終えてしまった。今回はどの国からも抗議はなかったためレースは成立されたが、もし、このような場合で日本選手

が被害を被ることがあるのであれば、選手自身のアピールも必要だが、コーチ・スタッフを含めてその場で直接抗議することが必要である。

5. 今後の課題

1) 選手の生活環境適応について

国内での開催であったため、食事と生活の適応については、全く問題はなかった。時差も気にする必要がなかったため、日本選手団としての集合を大会開始を2日前とし、極力普段の環境で最終調整ができるよう設定をした。遠征時の生活については、その国によっても異なることから、それぞれのケースに順応することが必要である。7月にはU20世界選手権が行われることから、事前にアジアジュニアで海外での適応・準備について選手団に意識させることができたのは良かった。今回、選手村には日本選手団だけであった。もちろん一長一短ではあるが、ジュニア世代の競技者として人間的な成長の糧となるような遠征となるよう、海外の競技者とも触れ合える機会がもう少しあったらよかったのではないかと感じた。

2) 充実した指導者の派遣

本大会の成果は、経験豊富なコーチ・スタッフ陣に支えられたところは大きい。指導者の質を高めていくために、大会派遣で得られる実体験は必要不可欠である。そのために、今後も、アジアジュニア、U20世界選手権では、若手指導者と経験豊富な指導者との組み合わせで派遣することが有効であると感じた。

7月にはU20世界陸上競技選手権大会がフィンランドで開催されます。東京五輪に向けた試金石となる戦いで再度、史上最高成績を達成し弾みをつけていきたいと考えています。競技者、コーチ、その他関係各位の皆さま、引き続きご協力をお願い申し上げます。



IAAF RUN 24:1 「Outrun the Sun」開催報告

2018年6月6日（水）東京・駒沢公園にて国際陸連、日本陸連主催の「IAAF RUN 24:1 Outrun The Sun」が開催された。6月の第一週の水曜日は「Global Running Day」世界中の人たちと走る喜びを分かち合う日である。本イベントの趣旨は、世界24都市で1マイルのランニングイベントを行い、時差を利用してニュージーランド・オークランドからカナダ・バンクーバーまでリレー形式で24時間走り続けることである。東京は、3番目の都市であり、オーストラリア・メルボルンから受けて、中国・北京につなぎ、IAAFのWebサイトにてライブ配信された



イベント当日は生憎の雨であったが、大人350名、子ども50名の約400名規模のイベントとなった。ゲストとしてダーラン国際陸連副会長、横川日本陸連会長、荒井広宙シティキャプテン、日本陸連アスリート委員会からのステージイベントから始まった。1マイルのランニングの各組に、ゲストに加え日本体育大学、明治大学、駒沢大学の長距離ブロックの選手たちが先導役となり参加者とともに公園のランニングコースを走った。



【キッズデカスロンチャレンジ】

セイコーゴールドランプリや日本選手権で実施している「キッズデカスロンチャレンジ」が日本陸連普及育成委員会及び日本体育大学陸上部によって行われた。



【アスリート委員会特別クリニック】

東京会場の特別プログラムとして、イベント当日は駒沢陸上競技場を参加者限定で無料開放を行い、1マイルラン終了後には、アスリート委員会による特別プログラムを実施した。

高平 慎士 五輪メダリストに学ぶ！バトンパス&スプリント講座





加納 由理 加納さんとペーランしよう！長距離講座



谷井 孝行 スプリント、跳躍にも役立つ！競歩ドリル講座



横田 真人 乳酸と友達になろう！中距離講座～ショートインターバルでレース感を磨こう～



名 称：IAAF RUN 24:1

開催趣旨：陸上競技およびスポーツの普及を目的とした、国際陸上競技連盟のグローバルキャンペーンとして、2018年6月6日（現地時間17時）、世界の24都市において同時に1マイルを走るファンランイベントを実施します。24都市のランナーが、各都市に沈む太陽と共に走り、次の都市へとRUN（走り）を繋ぎます。

主 催：国際陸上競技連盟

公益財団法人日本陸上競技連盟

協 力：公益財団法人東京都公園協会、アシックスジャパン株式会社、株式会社TBSテレビ

後 援：東京都

運営協力：公益財団法人東京陸上競技協会、OTT（オトナのタイムトライアル実行委員会）、日本陸連普及育成委員会、日本陸連アスリート委員会

参加都市（24都市）：

1. オークランド (NZL) → 2. メルボルン (AUS) → 3. 東京 (JPN) → 4. 北京 (CHN) → 5. バンコク (THA) → 6. デリー (IND) → 7. ミンスク (BLR) → 8. ラマラ (PLE) → 9. アディスアベバ (ETH) → 10. ヨハネスブルグ (RSA) → 11. ニース (FRA) → 12. ベルリン (GER) → 13. ロンドン (GBR) → 14. ラバト (MAR) → 15. アビジャン (CIV) → 16. プライア (CPV) → 17. サンパウロ (BRA) → 18. プエノスアイレス (ARG) → 19. ハバナ (CUB) → 20. トロント (CAN) → 21. リマ (PER) → 22. メキシコシティ (MEX) → 23. ロサンゼルス (USA) → 24. バンクーバー (CAN)

セイコーゴールデングランプリ陸上2018大阪 キッズデカスロンチャレンジ報告

普及育成委員会 岸 政 智

セイコーゴールデングランプリ陸上2018大阪にて、通称デカチャレ（キッズデカスロンチャレンジ）を5月19日（土）に実施いたしました。デカチャレは、国際陸上競技連盟が子ども達のフィジカルリテラシーを向上するために推奨するキッズアスレティックスを準拠して行っております。それを日本陸上競技連盟普及育成委員会がアレンジをし、同時に多くの種目を体験できるように、デカスロン（10種目）チャレンジ（挑戦）と銘打ち実施をしております。今年度は、本大会以外に日本選手権やアジアジュニア陸上競技大会、国際陸連主催の「IAAF RUN 24 : 1「Outrun the Sun」でも実施をしております。

デカチャレは、10種目をこなすことが目的では無く、スポーツの基本である「走る」「跳ぶ」「投げる」を楽しく行うことをコンセプトとしています。今回の参加者は、

大阪市の協力の下、事前募集をした約70名が参加いたしました。

当日は、グランプリ前日ということもあり、外国招待選手や日本選手が競技場やサブトラックに訪れていました。そのサブトラックを使用し、受付を行い、そこからグループ分けとW-UPを実施。準備体操中に突然現れたアスリオンに子ども達も大興奮。そこから約1時間半、子ども達は、学年別のグループに分かれてデカチャレを体験いたしました。

今回実施した種目は、①ケンケンジャンプ、②クロスホッピング、③ジャベポールスロー、④バウンディング、⑤ラダー、⑥ハードル、⑦ジグザグジャンプ、⑧フィギュアエイト、⑨メディシンポールスロー、⑩リングサイドスローの10種目。走跳投をまんべんなく取り入れ行いました。ラダートレーニングでは走る基本動作を実施後



にリレー形式で競争をし、バウンディングではチームの仲間と立幅跳びを行い、チームみんなで跳んだ距離の合計で競争をし、ジャバボールスローでは、得点付きの大きな的をテントに張り、そこをめがけて投げ当て、その合計得点で競争するなど、少しでも子ども達が興味を持つような工夫をし、実施いたしました。各種目ともに、10分程度の限られた時間ではありましたが、安全で正しい姿勢や動きの中でのフォームを体感することができました。なによりも、競争することで一段と習得に意欲が沸き、盛り上がったように感じました。

子ども用の用具を使用することで、大きさや素材の硬さ、重さなども小学生低学年の子ども達でも怖がらずにチャレンジすることができました。

その後、デカチャレでは初の試みである「フォーミュラー・1」を実施いたしました。これは、チーム対抗のリレーです。ただ走るだけのリレーではなく、デカチャレで習得した複数の種目を、コース上に設置しそれらをクリアしながらトラックを一周回り、次走者にバトンパスするルールです。バトンは大会で利用する競技用のバトンではなく、握りやすいリングバトンを使用しました。まさにF1レースのように、目まぐるしく順位が変

動し応援もエスカレートして大いに盛り上がりました。チームのために自分だけでなく仲間も応援する様子が見て取れるのも、陸上競技という個人種目にはないチームの連帯感を感じられました。

また最後は、参加した子ども達限定で、ヤンマースタジアム（本競技場）を見学することができました。翌日の熱戦の場をグランドレベルに降りることで、競技場の大きさや緊迫感も感じられました。そこで選手と同じ目線で、実際に100mのスタートラインに立ち、ゴールまで駆け抜けてもらいました。

参加した子ども達にとって、あっという間の3時間でもとても貴重な経験となったことと思います。

このイベントは、子ども達が「走ること」「跳ぶこと」「投げること」が楽しいな、と感じることが一番大切であり、そのために普及育成部では、学年や経験により、安全の中での指導や声掛けを行い、デカチャレを体験した後は“笑顔になること”、それこそが子ども達が陸上競技に触れる第一歩となるようにと考えております。

最後になりましたが、キッズデカスロンチャレンジを実施するにあたり、ご協力をいただきました皆様に心から厚く御礼申し上げます、報告とさせていただきます。



2018年度全国医務部長会議報告

理事・医事委員長 山澤文裕

日本陸連医事委員および都道府県陸協医事関係者が一同に介する全国医務部長会議を2018年6月3日にNTCにて開催した。今回で10回目である。44都道府県陸協に医事組織があり、残り3県となった。しかし、医事組織がある44都道府県陸協の中で、医師が関わっているのは33県にとどまっている。今回の会議には、都道府県陸協から32名の参加者があったが、医師以外の参加者もあった。陸上競技大会等における医療救護体制のトップは医師であること望ましく、また陸協内において日本陸連医事委員会との連携を円滑にするため、医師を含めた医事委員会の設置がさらに進むことが望まれる。

国際大会帯同ドクター報告

2017年8月4～13日に開催された第16回世界陸上競技選手権ロンドン大会について田畑委員が報告した。選手団は、選手48名、コーチ・役員32名、メディカルスタッフは医師2名、トレーナー3名。日本より10℃以上気温が低く、朝晩冷え込む(12～13℃)のが特徴で、にわか雨が多い気候であった。整形外科医はサブトラックで故障の対応、内科医は競技場でドーピング検査の対応、トレーナーはチームテント、練習場、ホテルで選手のケアを行った。大会期間中に他国選手団のホテルで集団食中毒が発生した。緊急メディカルミーティングが開催され、経過と感染拡大予防のための対応法について説明がなされた。問題はあったものの、出場予定選手は全員試合に参加することができた。コンディションチェックにおいて新たな試みとしてLINE@を導入し、従来よりも迅速かつ効率的なコンディション把握が可能となった。他に、第22回アジア選手権大会報告(金子委員)、第23回世界ハーフマラソン選手権大会(同)などについて報告された。

マラソン心肺停止事例調査報告(真鍋委員)

国内のマラソン大会中の心肺停止に関する調査で、総参加者3,364,598人のうち、心肺停止事例は57例(約5.9万人に1例)であった。死亡例は1件と極めて少なく、わが国における医療体制の充実ぶりが示された。

女性アスリートの障害予防対策(塚原委員 代理田畑委員)

女性アスリート特有の疾患や障害をロールモデルになる女性アスリートと医事委員との対談記事にした。これまでに無月経・月経困難症・出産・摂食障害・体重コントロールについて取り扱った。

男性アスリートにおける骨代謝(鳥居副委員長)

男性持久系アスリートにも同様に疲労骨折の問題がある。女性はエネルギー不足から月経異常が起っており、婦人科の受診が勧められているが、男性の疲労骨折に対するアプローチは女性に比べると少ないのが現状である。研究成果の一端が報告された。

ジュニアアスリートのスポーツ障害(鎌田委員)

全中では60.5%、駅伝では49.7%にスポーツ外傷・障害の受傷歴があった。インターハイ出場選手では75.5%とさらに高い受傷歴になっていた。肉離れは全中で太もも裏に多く、駅伝で太もも前に多いという結果であった。太もも前の肉離れは中学生に特徴的な結果であった。中学生でも駅伝選手は

5人に1人が疲労骨折を経験していることが報告された。

トランスジェンダー競技者(山本委員)

近年トランスジェンダーの性転換が法的に認められるようになってきており、その出場資格についても議論されている。2015年の性別適合および高アンドロゲンに関するIOC合意会議では、女性から男性に転換したものは制限なし、男から女の場合は自分のジェンダーアイデンティティを女性と宣言していること、テストステロンが12か月以上10nmol/L未満を保つ必要があるとされた。さらに2018年にIAAFは400mから1マイル走に限って新たな指針を出した。競技力が国際レベルのトランスジェンダーは自認性転換して6か月間テストステロンが5nmol/L未満ならその自認性で出場できることになった。アンチ・ドーピング(真鍋委員)

ロシアの陸上やソチオリンピックでの隠ぺい問題、パラドーピング、国体や水泳で初の陽性事例など、ドーピング問題が増加している。ロシア陸連は国ぐるみのドーピングで国際陸連から資格停止がなされている。医師は競技者であることの確認、禁止表、TUE申請、配合剤に注意し、スポーツファーマシスト、Global DRO、USADA supplement 411などを活用すべきである。

薬物乱用(山本委員)

ドーピング、違法薬物の使用、未成年飲酒の防止を啓発するための陸連発行Anti-3D(Doping, Drug, Drinking)パンフレットを紹介した。ADHD治療薬に関する注意としてストラテラ・インチュニブはTUE不要、コンサータは禁止物質なのでTUE必要、海外ではADDERALLというアンフェタミン含有剤があるが、国内では覚せい剤なので持っているだけで犯罪になる。東京2020のとき持ち込む選手がいる可能性がある。

スポーツ栄養(浜野氏)

エネルギー不足を予防する食事として、主食は筋グリコーゲンの補充、脳のエネルギー確保のために重要である。スポーツ選手の糖質摂取ガイドラインから長距離・競歩は7g/kg/日、短・中距離・跳躍・投擲は6g/kg/日程度の糖質摂取が勧められる。糖質の不足、エネルギー不足から練習量が減少し、コンディショニングも困難になるため痩せにくくなり、さらに体重を気にして食べなくなるといった負のスパイラルに陥ってしまう可能性があると報告された。

サプリメント使用状況(田畑委員)

2013-2017年の国際大会に出場した449名の日本陸上代表選手のうち、294名(約65%)がサプリメントを使用していた。シニアではジュニアより有意に使用率が高かった。競技別で見ると長距離が有意に高かったと報告された。

医務部活動紹介

福岡、宮崎、青森、福井、茨城、鹿児島、高知、和歌山、奈良、広島、徳島、熊本、山口、長野、福井、京都から紹介があった。スタッフ人数や謝金などに大きな違いが見られた。紹介しきれないが様々な点について検討を行い、有意義な会議であった。最後に、佐々木副委員長の挨拶で閉会した。

RunJapan の設立準備状況について

日本陸連RunJapan設立準備室

去る2018年6月25日（月）開催の本連盟理事会において、以下の事項が報告されました。今後、本連盟は2018年10月より日本陸連内にRunJapanの発足に向けて取り組んで参ります。

○方針

ウェルネス陸上の理念のもと、全ての公認道路競走競技会の安全・安心な競技会運営の環境構築を目指して競技会運営の基準づくりに取り組む。

○道路競走競技会の認可と評価

道路競走競技会の発展のために「規則の遵守」と「質の向上」に取り組む。

公認競技会について、認可と評価を分けて考える。

専門委員会は、公認競技会を認可する。RunJapanは、道路競走競技会の評価をする。

尚、RunJapan設立に向けて、本連盟に設立準備室を設置した。

| 組織 | 役割 | 内容 | 効果 |
|----------|-------|----------|-------|
| 専門委員会 | 認可 | 運営基準の制定 | 規則の遵守 |
| RunJapan | 評価・指導 | 運営面の総合評価 | 質の向上 |

○道路競走競技会の認可

2019年度から変更となる公認競技会規程の、道路競走競技会の公認要件を検討する。

○道路競走競技会の評価

RunJapanは、安全・安心な競技会運営を中心として、総合的に評価する基準を検討する。

○道路競走競技会の各種課題

| 委員会 | 役割 |
|----------|-------------------|
| 競技運営委員会 | 道路競技運営マニュアルの整備等 |
| 施設用器具委員会 | 計測員の養成、体制の強化等 |
| 医事委員会 | 救護体制に関するガイダンスの策定等 |
| RunJapan | 評価基準の検討 |

○今後の予定

次回理事会（9月27日）で各種基準を諮り、10月から運用開始を目指す。

大会観戦ガイド

2018.7.1 時点

今年もジュニア・ユース世代の夏が始まります。目指せオリンピック！若きアスリートたちの活躍を、ぜひ応援して下さい！

平成30年度

全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 秩父宮賜杯 第71回全国高等学校 陸上競技対校選手権大会

▼競技期日：8月2日（木）～8月6日（月）

総合開会式 8月1日（水）

陸上競技開会式 8月2日（木）

▼会場：三重交通G スポーツの杜 伊勢陸上競技場
三重県伊勢市宇治館町510番地

▼アクセス：

- ・近鉄鳥羽線「五十鈴川駅」より徒歩約20分、伊勢自動車道「伊勢西IC」より車で約10分
- ・三重交通バス「蒲田駅」下車徒歩約6分、「猿田彦神社前」下車徒歩約10分

▼種目：

〈男子〉 21種目

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、
110mH、400mH、3000m障害物、5000m競歩、
4×100mR、4×400mR、走高跳、棒高跳、走幅跳、
三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、
八種競技

〈女子〉 20種目

100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、
100mH、400mH、5000m競歩、4×100mR、
4×400mR、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、
砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、七種競技

▼放映予定：

8月3日（金）15：30～16：35 NHK Eテレ ※予定

8月4日（土）15：30～16：35 NHK Eテレ ※予定

▼問い合わせ先：



昨年度の大会の様子

平成30年度全国高等学校総合体育大会
伊勢市実行委員会事務局 陸上競技担当
TEL：0596-63-9780 FAX：0596-28-9020

E-mail：go-to-ise2018@city.ise.mie.jp

大会ホームページ

<https://www.koukousoutai.com/2018soutai/>

平成30年度 第53回全国高等学校 定時制通信制陸上競技大会

▼期日：8月9日（木）～12日（日）

開会式 8月9日（木）16：00～

競技会 8月10日（金）9：30～予定

8月11日（土）9：30～予定

8月12日（日）9：30～予定

▼会場：駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場
東京都世田谷区駒沢公園1-1-1

▼アクセス：

東急田園都市線「駒沢大学駅」下車、「公園口」の出口を出て、自由通りを南へ直進、「駒沢公園東口」から入場、陸上競技場（サービスセンター）まで、約15分。

▼種目：

〈男子〉 15種目

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、
400mH、3000m障害物、4×100mR、4×400mR、
走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投

〈女子〉 11種目

100m、200m、400m、800m、3000m、100mH、
4×100mR、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投

▼問い合わせ先：

全国高等学校定時制通信制陸上競技大会事務局（都立本所工業高等学校内）

TEL：03-3607-4500

大会ホームページ <http://www.mat.jp/~teitsu/>



昨年度の大会の様子



JAAF TOCHIGI 一般財団法人栃木陸上競技協会

〒321-0151 宇都宮市西川田6-4-37
株式会社 鈴和 三階
TEL.028-612-8594 FAX.028-612-8549
http://www.jaaftochigi.jp/

本格的にトラックシーズンを迎え、全国大会を始め各種大会において、本県選手が活躍することを大いに期待しております。また、各指導者においても、選手個々へ熱い指導と、高い目標を掲げ、強い精神力を養うなど、各種大会での活躍と好成績を修める日々の努力を期待しております。

2022年に本県で開催される第77回国民体育大会の県競技力向上対策本部では、4年後の中心選手として活躍が特に期待できる選手「A強化指定選手」→〔1名〕及び「B強化指定選手」→〔9名〕、以上10名の選手と、チームとしては、「A強化指定チーム→1チーム」が今年度の強化支援事業として認定されました。

また、第77回国民体育大会で活躍が見込まれる選手として、小学生5～6年生…18名と中学生1～2年生…18名を選出し、計36名の選手を今年度「チームとちぎジュニア選手」として推薦します。8月には認定授与式に参列し、トップアスリートによる講演会等に参加することになります。

当協会は、第77回栃木国体へ向け、成年選手育成企業雇用対策委員会と強化部や強化委員会と連携を図り、強化育成及び一貫指導の上から成年選手の強化と女子選手育成を目的に、県内の企業・事業所に対して、有望選手の雇用等を含め、企業・事業所の選定及び挨拶訪問の実施や各大学へ挨拶訪問を実施するなどの連携を図り、雇用の祈願を通して選手の強化育成及び競技力向上に取り組みをしているところです。
(文責：理事長 大谷津薫)

JAAF GUNMA 一般財団法人群馬陸上競技協会

〒370-0871 高崎市上豊岡町145-5 今井酒店 気付
TEL.027-345-7790 FAX.027-345-7791
http://gold.jaifc.org/gunma/index.html

2018年度シーズンも群馬リレーカーニバル大会において、審判講習会を開催し競技運営委員長より詳細な説明を行い周知徹底しました。シーズン前半、大きなトラブルもなく大会・競技会が行われています。

今年度は、7月6日(金)～8日(日)の3日間にわたり、World Para Athletics公認 2018 ジャパンパラ陸上競技大会が、開催されます。2004年の全日本中学校陸上競技選手権大会以来の全国大会開催となります。事前にジャパンパラ陸上競技大会に向けて一般社団法人日本パラ陸上競技連盟より講師を招聘し、審判講習会を開催しました。万全を期して大会運営にあたりたいと思います。

6月7日から行われたアジアジュニア陸上競技選手権大会で、農大二高出身の白尾悠祐選手が400mH50"52でみごと優勝しました。女子では共愛学園高出身の奥村ユリ400m 5位・4×100mRで2位でした。また、7月4日・5日に行われるユースオリンピック競技大会のアジア地域予選大会に前橋育英高の古澤一生選手と農大二高の石田洗介選手が出場します。

最後になりますが、この3月に行われた理事会において、長年理事長を務めております武藤顕氏が、理事長兼務で会長指名学識経験副会長に就任いたしました。武藤氏には、今後も群馬の陸上界のためにご尽力していただきたいと思っております。
(文責：副理事長・総務委員長 永井正樹)

JAAF SAITAMA 一般財団法人埼玉陸上競技協会

〒362-0034 上尾市愛宕3-28-30
上尾運動公園陸上競技場内
TEL.048-771-4248 FAX.048-772-4566
http://sairiku.net/

平成30年度の各種競技会がスタートしましたが、4月にビッグニュースが飛び込んできました。4月16日アメリカマサチューセッツ州ボストンで開催された第122回ボストンマラソンに於いて川内優輝選手(春日部東高校出・埼玉県庁)が2時間15分58秒で日本人としては1987年の瀬古利彦選手(エスピー食品、当時)以来31年ぶりの優勝を飾りました。当日は冷たい雨と強い向かい風に見舞われる悪天候のなか粘りのレースで、40km過ぎにキルイ選手(ケニア)を逆転し、日本人として初めてワールドマラソンメジャーズの対象レースを制しました。また東京オリンピックの最終選考レース(MGC)の資格も獲え、今後が楽しみです。

最後に、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場の大型スクリーンが改修され、動画も映し出されるようになり、観客の皆様により一層わかりやすく、楽しめる競技場になりました。

(文責：総務委員会 木村一也)

JAAF CHIBA 一般財団法人千葉陸上競技協会

〒263-0011 千葉市稲毛区天台町323
千葉県総合スポーツセンター内
TEL.043-252-7311 FAX.043-252-7314
http://www.jaaf-chiba.jp/

4月の千葉県記録会兼国体第一次予選会から、本県でも本格的にシーズンが始まりました。5月に開催された県高校総体では、スプリント種目を中心に男子7種目女子7種目で大会新記録が生まれ、その勢いのまま6月の南関東大会では男子11種目、女子8種目で優勝を飾り、男女計100余名が2018東海総体に出場します。特に男子5000mの石井一希選手(八千代松陰高)は14'10"19の大会新記録で優勝。女子100mHの小林歩未選手(市立船橋高)準決で13'63の県高校新、決勝では向風1mの中13'71の大会新で優勝するなど、伊勢の地で、本県高校生アスリートと全国の強豪との熱戦が期待されます。

本年度千葉県では、7月6～7日に関東聾学校陸上競技大会、8月8～9日には関東中学校陸上競技大会の2つの関東大会が開催されます。いずれの大会も、各都県の子選を勝ち抜いた精鋭による熱戦が期待されます。選手の皆様が競技に専念できるよう安全安心な競技会運営を目指すとともに、選手の皆様の御健闘をお祈りいたします。また、10月21日にはちばアクアラインマラソン2018が開催されます。東京湾を横断するアクアラインを走り抜けるこのマラソンは、ベイエリアの秋の風物詩となりました。本協会では昨年度からコース点検、審判編成等万全な大会運営に向け準備に取り組んできました。第1回大会から毎回晴天に恵まれている本大会ですが、「海を走ろう～アクアラインの風によって～」のキャッチフレーズのもと参加ランナーの皆様にも楽しんでいただきたいと思います。

事務局からのお知らせ

◆◆全国統一かけっこチャレンジ2018◆◆



大会名 全国統一かけっこチャレンジ2018
 主催 公益財団法人日本陸上競技連盟/全国公共スポーツ施設指定管理者
 後援 スポーツ庁
 開催期間 2018年6月～2019年3月
 参加資格 5歳以上 ※18歳未満の方は保護者の承諾が必要となります
 ※小学生以下がご参加の場合は保護者同伴でご来場ください
 参加費 大人：1100円(税込) / 子供：600円(税込) ※18歳、高校生まで ※同伴、観覧のみの方の参加費は不要です
 申し込み 公式HPより申し込み
 イベント内容 50m・100m走タイムトライアル/かけっこ教室/世界記録体験コーナー等
 企画・制作 全国統一かけっこチャレンジ事務局
 企画・運営 電通国際情報サービス(全国統一かけっこチャレンジ事務局)

| 日程 | 都道府県 | 会場 | 日程 | 都道府県 | 会場 |
|------------|------|----------------|------------|------|----------------|
| 6/2 (土) | 静岡 | エコパスタジアム | 9/30 (日) | 新潟 | デンカビッグスワンスタジアム |
| 6/9 (土) | 広島 | 東広島運動公園 | 10/7 (日) | 香川 | Pikara スタジアム |
| 6/30 (土) | 東京 | 江東区夢の島競技場 | 10/8 (月・祝) | 福島 | あいづ陸上競技場 |
| 8/4 (土) | 群馬 | 正田醤油スタジアム群馬 | 10/21 (日) | 東京 | 町田市立陸上競技場 |
| 8/18 (土) | 青森 | 青森県総合運動公園陸上競技場 | 12/16 (日) | 静岡 | 清水総合運動場 |
| 8/26 (日) | 石川 | 金沢市営陸上競技場 | 3/3 (日) | 和歌山 | 紀三井寺公園陸上競技場 |
| 9/17 (月・祝) | 岩手 | 北上陸上競技場 | 日程調整中 | 神奈川 | 日産スタジアム |
| 9/24 (月・祝) | 神奈川 | 相模原ギオンスタジアム | | | |

<http://www.kakekko-japan.com/>

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)
 友永 義治 (陸連副会長)
 八木 雅夫 (陸連副会長)
 尾縣 貢 (陸連専務理事)
 伊東 浩司 (陸連強化委員長)
 風間 明 (陸連事務局長)
 高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
 ◇時報編集担当
 繁田 進
 石塚 浩
 青木 和浩
 宮田 宏
 廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
 東京都新宿区西新宿2-7-1
 小田急第一生命ビル17階
 公益財団法人日本陸上競技連盟 内
 TEL 03-5321-6580
 FAX 03-5321-6591
 WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
 公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>